

塾の発展は、生徒・社員を問わず、心を磨く機会をいかに多く創造できにかかっている

丁寧な情報発信が顧客創造の基本

ビジネスの根幹には、顧客満足の追求があります。企業の全ての努力は、顧客のニーズに合わせるために行われます。ところが、顧客の置かれている状況が複雑で見通しが悪いとき、自分に必要なものは何か、顧客自身ははっきりと自覚していないことがあります。その結果、顧客が自身にとって不利益な選択をしてしまうケースすらあり得ます。こんなとき企業は、顧客が不利益を被ることのないよう、目先の利益を度外視しても、顧客に対して丁寧な情報発信を行うべきです。近年に

ての解説と、これから求められる能力は何かを共通テーマにして、まず5〜6月には高大接続改革の第一世代となる現中3生保護者、7月には小学生とそのご家庭、そして高校1・2年生の生徒、9月からは高校生の保護者、そして11月からは中高一貫6年制の生徒、12月からは中2生・中1生・小6生と、対象ごとに内容をアレンジしながら連続してセミナーを開催し、多い所では1会場で1000名を超える方にご来場いただいています。

2017年度のeisuは、最高執行責任者の伊藤が先陣に立って、様々な学年とその保護者さまに対して、啓蒙的な教育セミナーを頻繁に行っています。現在進行している教育改革の本質につ



こうしてお集まりいただいた方のご感想を拝見しますと、「こうした情報提供の機会をくださり、ありがとうございます」といふ声がいかに多いかに驚かされます。「これくらいのことにはご存知だろう」と思っていたようなことも、意外とご存知ないのです。例えば「進学の各段階で英語の民間資格が必

要になるから、早めにその対策をする必要がある」というごく基本的な点すら、必ずしも浸透しているわけではないのです。またメディアで与えられる情報は断片的で、学校でもきちんと説明がされていないからでしょうか、頭では分かっている、き

んと腹落ちしておらず、行動へと結びつかないのでしょうか。私たちは、伝えたいつもり、分かっているつもりになりたくないで、顧客が腹落ちするまで、丁寧に粘り強く発信し続けることがいかに大切かを痛感しました。

「生きた英語」を学ぶ機会をたくさん設ける

一方、新たな顧客のニーズに直接応える施策も打っていく必要があります。eisuでは今秋から実践英語を学ぶ新しい企画として「David Thayne GLOBAL CAMPUS (デイビッド・セイン・グローバルキャンパス)」を始めました。これは「デイビッド・セイン英語ジム」を主宰するeisuとデイビッド・セイン氏が企画した、気軽に英語一日留学体験を味わえる、「生きた英語」を学ぶための実践英語習得プログラムです。デイビッド・セイン氏自ら参加し、遊びを交えながら英語でのコミュニケーションを楽しみ、英検などで求められる英語面接の練習まで行うイベント色の強いもので、eisuでは10月22日、11月4日に三重の「eisu倶楽部湯の山」で2回実施しましたが大好評でした。12月10

日には東京の「eisu六番町ヒルズ」で実施します。こうした事例を通して感じるのは、今までの日本には「生きた英語」を学ぶ機会がいかに少なかったかということです。英語を使ってネイティブ・スピーカーと楽しい学習に共にする、それが「生きた英語」の学習に一番の方法だということはわかってはいても、金銭的・時間的・精神的にどうしても敷居が高く感じられ、なかなかそれができないというのが実情だと思います。

「生きた英語」を学ぶ機会をたくさん設けるには東京の「eisu六番町ヒルズ」で実施します。こうした事例を通して感じるのは、今までの日本には「生きた英語」を学ぶ機会がいかに少なかったかということです。英語を使ってネイティブ・スピーカーと楽しい学習に共にする、それが「生きた英語」の学習に一番の方法だということはわかってはいても、金銭的・時間的・精神的にどうしても敷居が高く感じられ、なかなかそれができないというのが実情だと思います。

テストで点を取る、資格をとる、そのために学ぶということとはとても大切です。しかし言語コミュニケーションは、本来は人間同士の心の交流そのものです。私たち塾は、ともすれば人と人との心の触れ合いをベースにせず、子供に英語を学習させてきたのかもしれないと反省するとともに、こうした機会をもっともつと創造していかなくては、という意欲に駆られます。またデイビッド・



実践英語を学ぶ [David Thayne GLOBAL CAMPUS]

子供たちと社員の心のエネルギーが表出

人間同士の心の交流と言え、ひと言申し上げたいのは今年の11月3日に第30回目を迎えました「eisu文芸カップ」です。今年も多くのご参加、そしてご後援・ご協賛をいただき成功を収めました。私も最初から最後まで表彰状の授与などさせていただきま

ます。と同時に、こうした心のエネルギーを育むことこそ、私たち教育者の使命であると確信しました。eisuの社員たちもそうした子供の姿に日常的に触れることで感化されるのでしょうか、自分を高めようと様々な研修を行ったり、自己研鑽の機会に参加したりしています。2017年5月28日(日)に行われた「日本教育士検定/全国名教師授業大会」では、おかげさまでeisuの社員も高い評価をいただきましたが、何より嬉しく感じたのは、私自身が社員たちの心のエネルギーの表出に触れる経験を持つたことです。人の心を育めるのは人の心でしかない、そう思うとき、塾の発展は、生徒・社員を問わず、こうした心を磨く機会をいかに多く創造できるにかかっている、そんな思いがいたしました。2018年は5月27日(日)に、東京でeisuが運営を担当する運びになっておりますが、そうした創造に参与できるように、微力ながら力を尽くしたいと思っております。



「eisu 文芸カップ 2017」で表彰された子供たち



eisu group
三重県津市

山本 千秋
最高経営責任者 (CEO)

eisu group
eisu 小中部 nice
eisu 高校部
「デイビッド・セイン英語ジム」
／パズル道場／LOGICTREE
／eドリル」を主宰し、子供たちの「能動学習」の推進に努める

れた子供たちの心のエネルギーに触れることができ、改めて感動しました。子供たちがテーマに基づいて絵画や物語を制作したり、弁論したり、英語で寸劇をしたり、スピーチしたりするのですが、発表された内容の水準の高さもさることながら、こうした水準まで自分を高めていった子供たちの心のドラマを思うとき、感動もひとしおになります。こういう子供たちを見てると、日本の将来について楽観的な気持ちになれ

ます。と同時に、こうした心のエネルギーを育むことこそ、私たち教育者の使命であると確信しました。eisuの社員たちもそうした子供の姿に日常的に触れることで感化されるのでしょうか、自分を高めようと様々な研修を行ったり、自己研鑽の機会に参加したりしています。2017年5月28日(日)に行われた「日本教育士検定/全国名教師授業大会」では、おかげさまでeisuの社員も高い評価をいただきましたが、何より嬉しく感じたのは、私自身が社員たちの心のエネルギーの表出に触れる経験を持つたことです。人の心を育めるのは人の心でしかない、そう思うとき、塾の発展は、生徒・社員を問わず、こうした心を磨く機会をいかに多く創造できるにかかっている、そんな思いがいたしました。2018年は5月27日(日)に、東京でeisuが運営を担当する運びになっておりますが、そうした創造に参与できるように、微力ながら力を尽くしたいと思っております。